

やさしい気もちで

「どうぞ」

小二

わたしが、お母さんと目い
しゃさんに行つたときのこと
です。その日のまちあいしつ
は、とてもこんでいました、
わたしとお母さんは、また
ますわることができたので、
すわっておしゃべりをしてい
ました。

しばらくすると、つえをつ
いたおじいさんが入ってくる

のが見えしました。わたしは、
「おじいさん、歩くのがたい
へんそうだな。あいているせ
きがないけど、だいじょうぶ
かな。」と心ぱいになりました。
そのとき、すこし前に、家ぞ
くと電車にのつてお出かけし
たときのことを思い出しまし
た。それは、とてもこんでい
た車内で、男の人が、きゆう
に立ち上がって近くにいたお
じいさんにせきをゆずってい
たことです。わたしは、びっ
くりしましたが、「かっこいい
な。わたしも、やってみたい

な。」と思いました。お母さんも、

「あなたならできるよ。こんど、同じような場めんがあつたら、やつてごらん。」

と言つてくれました。わたしは、「ぜつたいやるぞー。」と心にきめたことを思い出したのです。「あのときの男の人のように、できるかな。」と思ひながら、わたしは、まちあいしつに来たおじいさんのところに行つてみました。むねがどきどきして、何て声をかけようか、ことばがなかなか出

てきませんでした。でもゆう気を出して、

「このせき、どうぞ。」
と言つてみました。すると、おじいさんが、

「ありがとう。」

ととてもうれしそうな声で、答えてくれました。わたしは、まだ、どきどきしていましたが、おじいさんのえがおが見られて、むねのおくがあたたくなくなつてくるのをかんじました。「せきをゆずれてよかったです。あのときの電車の男の人と同じようにできた。」ととて

もうれしかったです。お母さんも、

「あの日と同じようにできたね。すごい！」

とほめてくれて、もっとうれしくなりました。

そのあと、お母さんが、わたしがおしゃべりしたときのごとをおしえてくれました。わたしが小さかったころ、のっていたバスがぎゅうぎゅうで、本当に本当にたいへんだったときがあったそうです。にもつも、たくさんもっていて、わたしもだっこしないで、

ちやいけなくて、本当につらかったときに、親切な人がせきをゆずってくれて、心からありがとうございました。

わたしたちのまわりには、いろいろな人がいます。体がふじゅうだったたり、小さい赤ちゃんをつれていたり、たいへんな思いをしている人がたくさんいます。わたしは、みんながおたがいを思いやって、やさしい気もちで声をかけることができれば、みんながしあわせになれると思います。

わたしも、こまっている人に
いちど親切にできたので、じ
しんがつかしました。これから
も、やさしい気持ちをもつて、
こまっっている人がいたら声を
かけたいです。親切とありが
とうのえがおがたくさん広
がって、みんながしあわせな
気持ちになれるといいなと思
います。